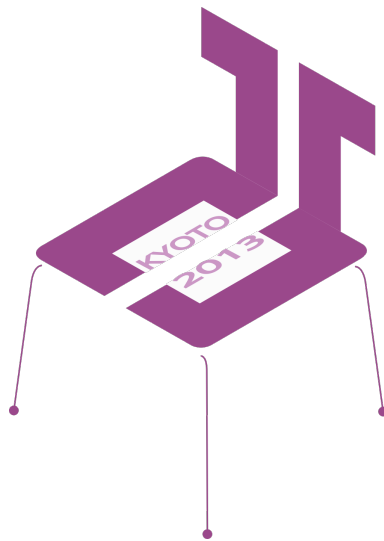


# JASIS 2013

The 25th Annual conference of Japan society for interior studies  
in Kyoto Women's University

## 大会プログラム



日本インテリア学会 第25回大会 (京都)  
2013年10月26日(土)・27日(日)  
京都女子大学



日本インテリア学会  
第25回大会（京都）  
大会長  
小宮容一

この度、2010年の大阪樟蔭大学での22回大会から3年を経て、関西支部に大会開催の要請があり、加藤力先生、片山勢津子先生等にご相談の上、京都女子大学で受けていただく事になりました。これまでの関西の大会開催が大阪府内でしたので今回の京都での開催は、会員の方にも新鮮に受け取っていただき、参加者の増員に繋がらねばと思っております。

今回の大会は、第25回、四半世紀といった節目の開催だと云えます。発表論文の傾向を見ますと、「計画」の題数がきわめて多く、インテリア学のユーザーや暮らし手を見据えた実際的な研究・理論に入ってきたかと認識します。一方、「人間工学」が減少傾向で、関係の先生方には奮起をお願いしたいところです。「歴史」は徐々に増えています。この回は「教育」分野を設けました。「パネル発表」に関しては、学術研究・理論を実際にインテリアの落とし込んだ私案や事例などが今後増えることを期待します。今回発表台数は53題で熱の入った発表と質疑応答が行なわれ、有意義な大会となりますことを実行委員一同念願しております。

今回、大会のテーマを「空間と室礼」としました。京都御所(寝殿造り)を見ますと平安貴族の生活シーンに合わせた「室礼」を確認することができます。京都から全国に又、次の時代に広まったのです。今回の見学会は、江戸末期の京都の花街島原の揚屋建築・インテリアと、安土・桃山時代建造の西本願寺を用意しました。それぞれ使用目的は異なりますが、その室礼を観察・体感していただければと思います。

最後に、会場他を提供いただきました学校法人京都女子学園に心よりお礼申し上げます。

—日本インテリア学会第25回大会(京都)実行委員会—

大会長	小宮容一	(芦屋大学)		
実行委員長	片山勢津子	(京都女子大学)		
副実行委員長	ペリー史子	(大阪産業大学)		
顧問	加藤力	(京都大学農学部)		
幹事	石橋実	(京都光華女子大学)		
	西山紀子	(京都橘大学)		
実行委員	井上徹	(芦屋大学)	植松暉子	(大阪産業大学)
	大江孝	(パナソニック.株.)	片山一郎	(近畿大学)
	加藤信喜	(畿央大学)	来海素存	(神戸女子大学)
	近藤雅之	(積水ハウス.株.)	鈴木儀雄	(大阪芸術大学)
	塚口眞佐子	(大阪樟蔭女子大学)	中村孝之	(積水ハウス.株.)
	永田恵子	(名古屋工業大学)	西岡基夫	(大阪市立大学)
	船曳悦子	(大阪産業大学)	矢部仁見	(帝塚山大学)
	山内一弘	(今宮工科高等学校)	横田哲	(SI住宅研究室)
				(五十音順)

## 日本インテリア学会 第25回大会 概要

1. 開催日 平成25年10月26日(土)・27日(日)
2. 大会会場 京都女子大学 J校舎(通称:馬場校舎)  
京都市東山区渋谷通東大路東入3丁目上馬町544番地
3. 理事会 日 時:10月27日 12:10~13:00  
場 所:5階会議室2
4. スケジュール

### ■10月26日(土)

#### 見学会

日本インテリア学会歴史部会共催

見学会名称:「島原の角屋」「西本願寺書院・飛雲閣(外観)・伝導院」見学会

開催日:2013年10月26日(土曜日)13:00~17:00(受付12:30~)

見学場所:① 角屋もてなしの文化美術館(京都市下京区西新屋敷揚屋町32)

② 西本願寺、伝導院(京都市下京区堀川通花屋町下ル)

集合場所:角屋もてなしの文化美術館(下記の地図参照)

(交通便:JR京都駅から嵯峨野線で1駅目の「丹波口」駅下車、南東へ徒歩約7分)

西本願寺:境内の龍虎殿前へ15時に集合し、本体と合流(下記の地図参照)

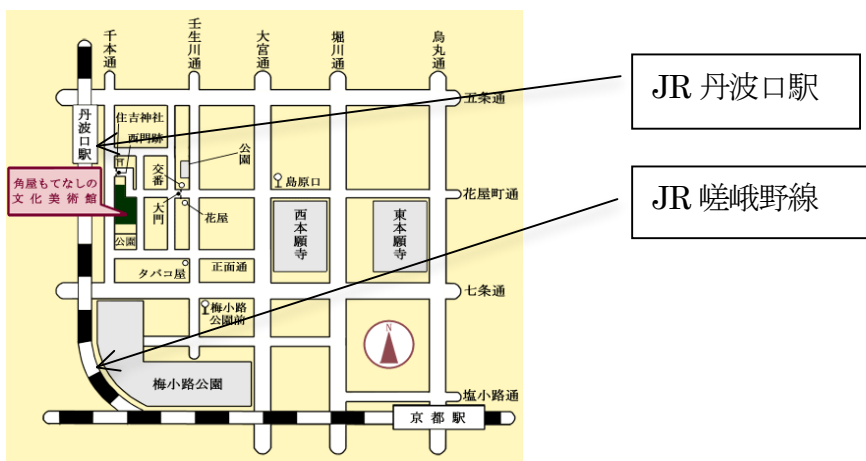
#### ① 角屋もてなしの文化美術館 (13:00~14:40)

江戸時代の花街の揚屋建築の遺構を見学します。

<http://www16.ocn.ne.jp/~sumiyaho/>

角屋の建物は、島原開設当初から連続と建物・家督を維持しつづけ、江戸期の饗宴・もてなしの文化の場である揚屋建築の唯一の遺構として、昭和27年(1952)に国の重要文化財に指定された。揚屋とは、現在の料理屋・料亭にあたり、角屋においては、その座敷、調度、庭のすべてが社寺の書院、客殿と同等のしつらいがなされ、江戸時代、京都において民間最大規模の饗宴の場であった。大座敷に面した広庭に必ずお茶席を配するとともに、庫裏と同規模の台所を備えていることを重要な特徴とし、そこでは、単に歌舞音曲の遊宴のみならず、和歌や俳諧などの文芸の席があり文化サロンとしての役割も果たしていた。また、幕末には勤皇・佐幕派双方の会合場所となり、維新の旧跡といえる。

また、角屋中川家伝来の美術工芸品、俳諧等の遺墨を保存・公開するとともに、茶会等の角屋関連諸行事及び歌舞等の時代風俗を保存継承・公開し、江戸時代のもてなしの文化について広く一般の理解を深めることを目的として、平成元年(1989)に財団法人角屋保存会が設立された。さらに平成10年度から「角屋もてなしの文化美術館」を開館し、角屋の建物自体と併せて所蔵美術品等の展示・公開を行っている。当日は「練物図と太夫道中資料展」が開催中。



② 西本願寺及び伝導院 (15:00 ~ 17:00) \*龍虎殿前集合

国宝の書院造のインテリアのほか、能舞台、唐門、飛雲閣 (外観)、さらに明治時代に建てられた、西本願寺の南に位置する、伊東忠太設計の伝導院 (1912) を見学予定。

主な建造物

『西本願寺 書院』

国宝 対面所 (鴻の間) は、203 帖敷きの大広間。上下段の堺の欄間に雲中飛鴻の彫刻があるため、鴻の間ともいう。上段の床には張良が四賢人を率いて恵帝に謁見する図が逆遠近法で描かれ、障壁画は狩野派の渡辺了慶筆で、華麗で重厚な趣が深い。

国宝 雁の間は、襖と貼付けに飛翔する雁の群れや水辺に遊ぶ雁を描いて、秋の風趣を表している。また隣接する菊の間との間の欄間には、雁を透かし彫りにし、隣室の月が眺められる。

『国宝 唐門』

本願寺の南にある唐門は、黒塗りに極彩色の桃山時代の豪華な装飾彫刻を充満した檜皮葺・唐破風の四脚門で、伏見城の遺構である。牡丹に唐獅子、竹に虎、麒麟に孔雀など数々の彫刻が施され、その豪華で精巧な様を眺めていたら、時間が経つのも忘れてしまうことから、別名「日暮らし門」と呼ばれている。

『国宝 飛雲閣』(外観のみ見学)

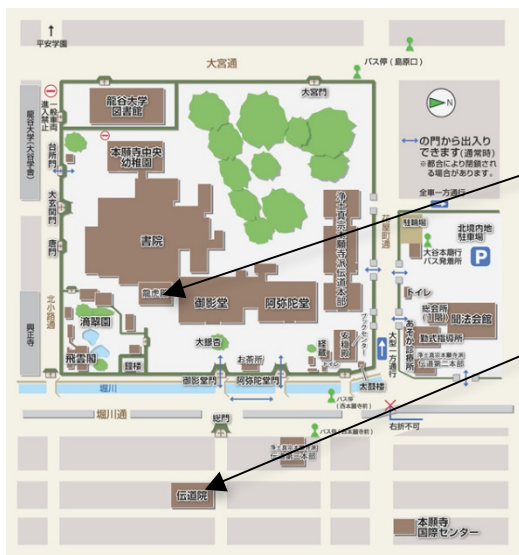
金閣、銀閣とともに京都三名閣の一つである。秀吉が建てた聚楽第の一部で、三層からなる楼閣建築であるが、第一層が入母屋と唐破風を配しているように左右非対照になっており、不規則ながら巧みに調和されている。

国宝 雁の間 襖と貼付けには飛翔する雁の群れや水辺に遊ぶ雁を描いて、秋の風趣を表している。また隣接する菊の間との間の欄間には雁を透かし彫りにし、隣室の月が眺められる。

『西本願寺伝導院』

西本願寺伝道院は伊東忠太の設計、1912 年竣工の 100 年建築である。京都市内西本願寺に程近い路地に面して建っている。端正な傾斜屋根の町屋建築が並ぶ町並みにあって、シンボルとなるドーム屋根を頂く八角堂を持つ個性的な外観にも拘らず、この街並みに思いのほか、ひっそり馴染んで建っている。

浄土真宗の信徒保険会社として建設され、その後、銀行、事務所、研究所、診療所と時代ともに用途を変え、現在は研修所として使われている。その間に幾度かの改修は行われているが、建設当時の外観、間取り等にほとんど変化はなく、創建当時の姿を維持保全して使われている。用途は変わっても空間はそのまま利用してきている。



西本願寺 集合地：龍虎殿

伝導院

## 懇親会

場 所：リーガロイヤルホテル京都 2階「ル・ボア」

京都市下京区東堀川通り塩小路下ル松明町1番地

TEL：(075) 341-1121 (代)

HP：http://www.rihga.co.jp/kyoto/

JR 京都駅から西へ徒歩約7分。見学会参加者はバス移動で直接ホテルへ。

JR 京都駅からシャトルバスあり。

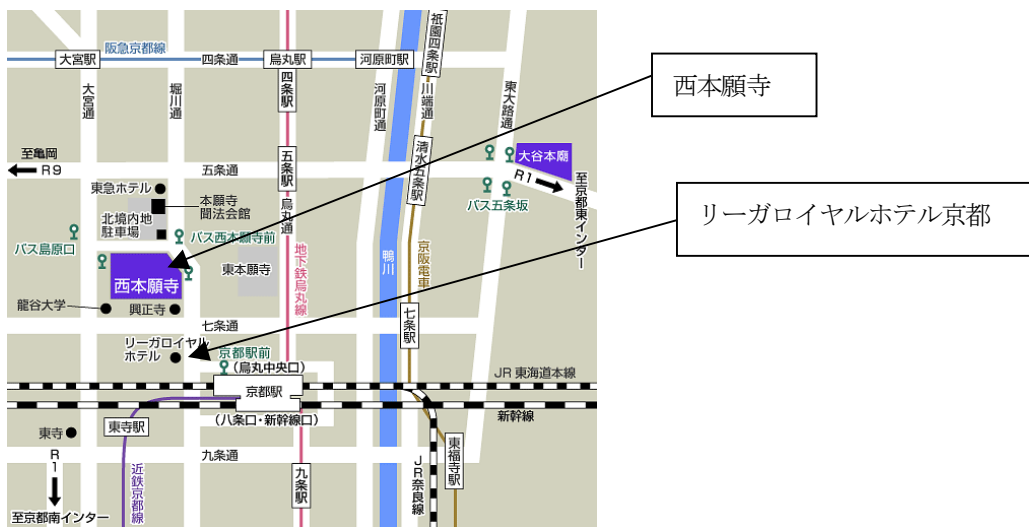
時 間：18:00～20:00 (受付 17:30～)

参加費：8,000 円

\*リーガロイヤルホテルの料理に加え、舞妓2名、三味線1名の舞と歌、伏見の日本酒を用意しています。



ホテルの概要：開業1969年11月1日。運営は「(株)ロイヤルホテル」。京都駅からほど近く、観光からビジネスまで利用できる老舗ホテルであり、和と洋が融合したモダンなゲストルーム、石畳や茶畑、枯山水をイメージしたつくりの客室フロアなど、京都らしいインテリアが特長である。また、最上階には、京都唯一の回転展望レストランがあり、東寺や東・西本願寺など、京都の景色を360度楽しめる。地上14階、地下2階、延床面積43,033㎡、482室。会議・宴会施設22ヶ所、最大収容人数1000名。



■10月27日(日)

日本インテリア学会 第25回大会 実施スケジュール

9:00	■受付開始 京都女子大学J校舎1階ロビー				
9:30 9:45	■開会式 5階 525 室				
10:00	■論文発表・第1部 <場所>2階 201 室・202 室、3階 301 室・302 室				
~	J201 室	J202 室	J301 室	J302 室	2 階ホール
	計画Ⅰ 10:00~11:00	計画Ⅳ 10:00~11:00	歴史Ⅰ 10:00~11:00	教育 10:00~11:00	
12:00	計画Ⅱ 11:00~12:00	計画Ⅴ 11:00~12:00	歴史Ⅱ 11:00~12:00	人間工学 11:00~12:00	パネル発表 11:00~12:00
12:00 ~ 13:00	■昼食<場所> 3 階 320 室 ■理事会<場所> 5 階会議室 2				■第20回 卒業制作展 <場所> 5 階会議室 1 9:30 ~ 15:30
13:15 ~ 14:45	■講演会 「日本の住まいとインテリア ー歴史的な視点からー」 川本 重雄 (京都女子大学学長、日本建築史家) <場所> 5 階 525 室				
15:00	J201 室	J202 室	J301 室	J302 室	
~ 16:00	計画Ⅲ 15:00~16:00		歴史Ⅲ 15:00~16:00	各種インテリア 15:00~16:00	
16:15 ~ 17:15	■閉会式・名誉会員表彰・卒業設計優秀賞発表				

## 1 大会参加費

---

正会員：2,000 円

準会員：1,000 円

賛助会員：一口につき一名無料、その他は2,000 円

会員外：4,000 円

\*参加費は9月27日までに、所定の「ゆうちょ銀行」に振り込んで下さい。

## 研究発表要領

---

### A 論文発表部門

- 1) 発表時間：9分・質疑応答：3分 計12分。  
1 鈴7分、2 鈴を9分（発表終了）、3 鈴を12分（質疑終了）とします。
- 2) 全て口頭発表とします。
- 3) 発表会場の次演者席に、発表15分前までに着席下さい。
- 4) PC プロジェクター及びWindows のパソコンは実行委員会が用意します。  
パソコン操作は発表者側でお願いします。
- 5) Windows のPower point が使える環境を用意しております。  
データは各自USB メモリーでご持参下さい。  
各発表会場で発表の事前にパソコンにデータを入れておいて下さい。

### B パネル発表部門

- 1) 発表時間：9分・質疑応答：3分 計12分。  
1 鈴7分、2 鈴を9分（発表終了）、3 鈴を12分（質疑終了）とします。
- 2) 発表者はパネル発表会場（J校舎2階ホール）の所定に位置に、午前9時30分までにパネルを展示して下さい。
- 3) 発表時は、発表者であることを座長に申告し、所定のホワイトボードにパネルを移して下さい。
- 4) パネルはA1サイズ（縦594mm、横814mm）の横使用とし、1題につき2枚に限定します。
- 5) 上記パネル以外に模型などを手に持って発表することは差し支えありません。
- 6) マイク、スライド、VTRなどの使用は出来ません。
- 7) パネルは発表終了後、16:00まで撤収・搬出して下さい。

## その他

---

- 1) 会場では参加票を必ず着用下さい。
- 2) 荷物は大型のもの以外は各自でお持ち下さい。  
大型のものは実行委員会の指定した預かり所にお預け下さい。
- 3) 京都女子大学は構内全面禁煙となっています。喫煙はJ校舎玄関の外でお願いします。吸い殻は各自で処理して下さい。



## 講演会

場 所：5階 525 教室

時 間：13:15～14:45

テーマ：日本の住まいとインテリア –歴史的な視点から–

講 師：川本 重雄（京都女子大学学長、日本建築史家）

略 歴：1953 年岐阜県に生まれる。

1982 年東京大学大学院工学系研究科建築学専門課程博士課程修了

1984 年北海道工業大学建築工学科講師

1999 年京都女子大学家政学部生活造形学科教授

2009 年京都女子大学学長

主な業績：『類聚雑要抄指図巻』川本重雄・小泉和子共編（中央公論美術出版、1998 年）

『寝殿造の空間と儀式』（中央公論美術出版、2005 年）



概 要：日本の住まいは、平安時代を境にして大きく変化します。寝殿造の列柱空間を仕切るために考案された引き違いの建具（遣戸）は書院造を生み、民家にも取り入れられます。引き違いの襖や障子がなかったら、日本の住まいは、今とは全く違った形になったでしょう。

今回の講演では、最初に日本の住まいの空間的特質である開放性が風土により獲得されたものではなく、歴史的に獲得されたものであることを確認します（1. 日本の住まいと風土）。その上で、寝殿造・遣戸の成立から（2. 寝殿造の成立と正月大饗、3. 遣戸の成立）、書院造への展開（4. 寝殿造から書院造りへ）、襖や障子が民家に取り入れられていくプロセス（5. 日本の民家）について、「儀式と住まい」の観点からお話しをします。

そして、最後に、こうした空間的特徴を持つ日本の住まいの室内空間が、室内意匠や室礼にどのような影響を与えたのかを検討します（6. 日本の住まいとインテリア）。

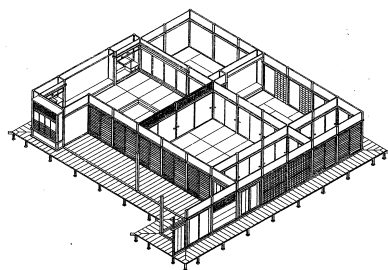


図 1. 『匠明』主殿復原図

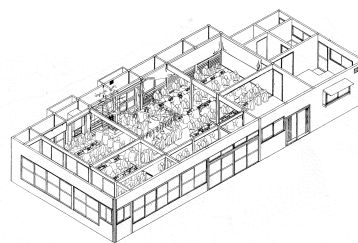


図 2. 椎葉村の民家での神楽

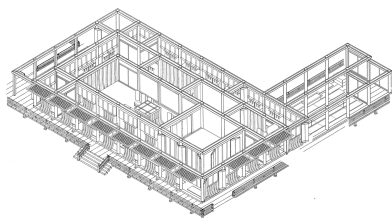


図 3. 東三条殿の室礼復原図



図 4. 屏風室礼（『類聚雑要抄指図巻』）